

記念講演 テーマ『こどもの目は輝いていますか』

講師 喜多 明人さん(早稲田大学 文学学術院 教授)

保護者と子どもの両者にアンケート調査を行った結果、子どもたちは自信がなく、自己肯定感が低いことがわかった。しかしながら一方で、保護者らは自分の子どもらに対して、自己肯定感が低いとは感じてはいないこともわかった。

今の子どもたちは、保護者が思っているよりずっと傷つきやすく、打たれ弱いと位置付けることができる。また、子どもらは、勉強や価値観を親や学校から押し付けられると感じていて、達成感をもつことが出来ていない。そうさせないためには、従来までの「指導」という教育方法から「支援」という形に変えていく必要があるのではないか。学校でも家庭でも、自発的に行動するのを「待つ」、失敗やつまづきを経験させる、「見守る」ことが必要である。

それと同時に、子どもたちにだけでなく、教師や、学校に対して支援していく体制も必要である。教師は、自分一人で責任をしょいこまず、専門家や地域などと連携をしてチームで問題解決に努めれば、いじめや暴力などに対する学校の対応力の幅を広げられるのではないかとした。

集会に参加して

われわれ保護者だけでなく、先生方も、子どもの自己肯定感を強めるには具体的にどうしたら良いか一所懸命考えて下さっていると感じました。失敗を恐れずのびのびと育てるには、保護者自身にもおおらかさや我慢強さが必要だと思いました。